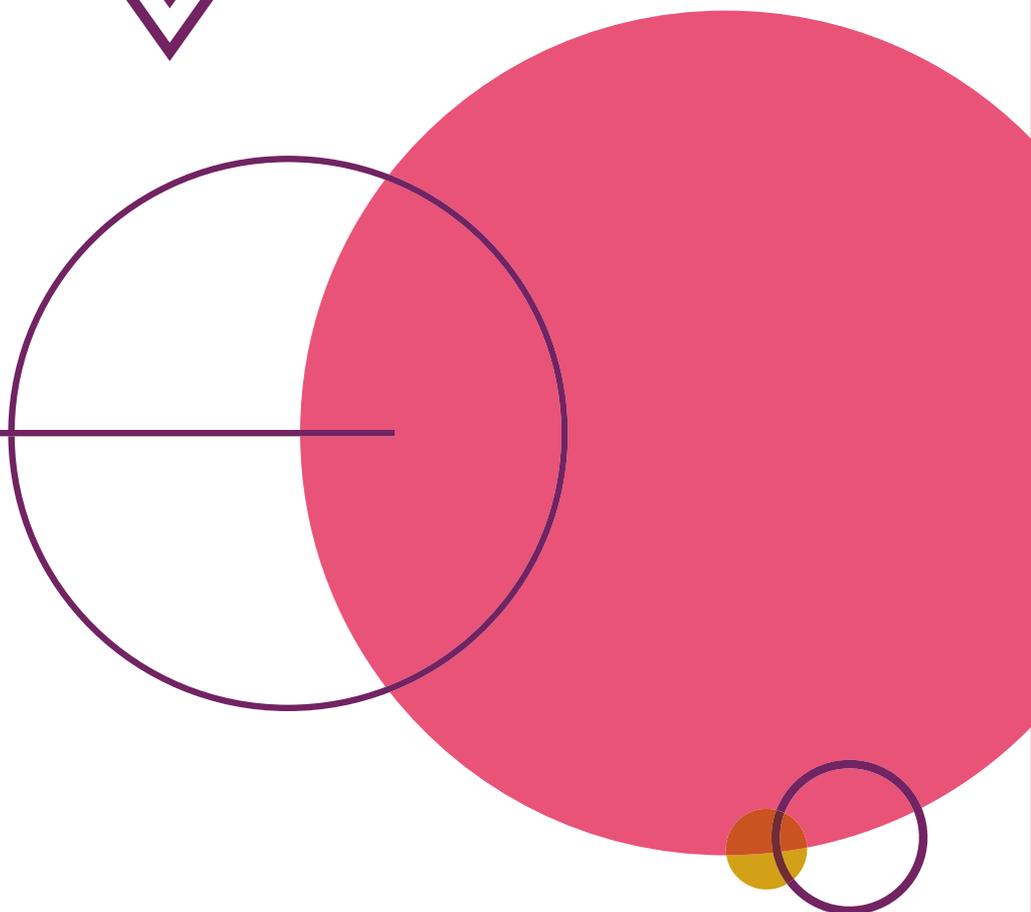


お薬説明書

ジーラスタ[®] ボディーポッドを使用されている方へ
～ がん化学療法による発熱性好中球減少症を抑えるために～

.. 監修 ..

東京医科大学 乳腺科学分野 主任教授 石川 孝 先生



Question

1

発熱性好中球減少症とは？

A がん化学療法(抗がん薬治療)にともなう好中球減少時に発熱した状態を、「発熱性好中球減少症」と呼びます。これは重い感染症につながる可能性があるため、できるだけ予防することが大切です。

Question

2

発熱性好中球減少症の発症を抑えるためには？

A 好中球を増やすお薬(G-CSF製剤)を使うことで、発熱性好中球減少症の発症を抑えることができます。

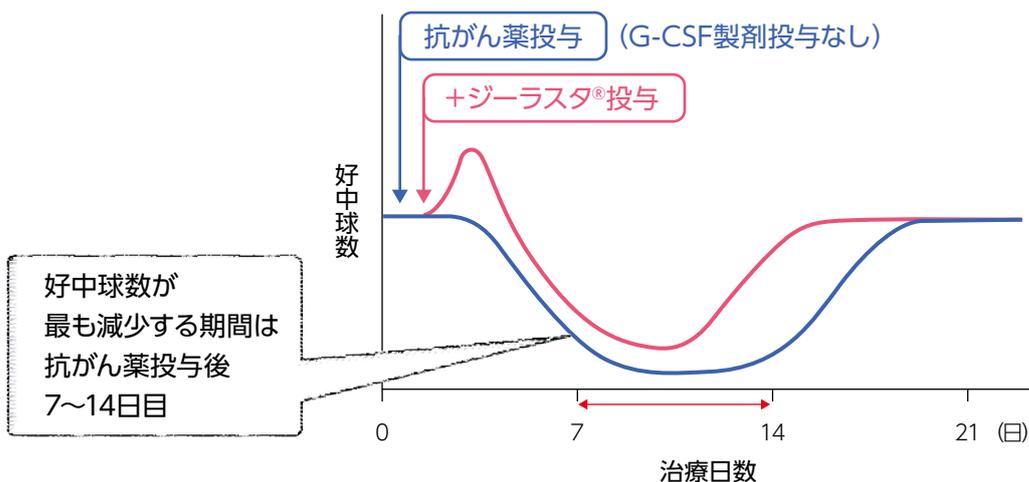
Question

3

ジーラスタ®ってどんなお薬？

A ジーラスタ®はG-CSF製剤という好中球を増やす注射薬です。発熱性好中球減少症を抑えるために、抗がん薬投与終了後24時間以降に1回投与されます。

(イメージ図)



抗がん薬を投与した後に好中球を増やすお薬を使うことで、好中球が極端に少なくならないようにし、好中球数が少ない期間を短くすることができます。

Question

4

ジーラスタ®の使用中にあらわれる副作用は？

A ジーラスタ®使用中は以下に記載した副作用があらわれることがあります。



これらの症状や、気になる症状があらわれた場合には、担当の医師あるいは看護師、薬剤師に連絡してください。

【重大な副作用】

ショック、アナフィラキシー（薬剤に対する過敏反応）、間質性肺疾患、急性呼吸窮迫症候群、芽球の増加（白血病・骨髄異形成症候群の場合）、脾腫・脾破裂、毛細血管漏出症候群、Sweet症候群、皮膚血管炎、大型血管炎

● ショック、アナフィラキシー

薬剤による過敏反応のことです。投与後すぐに、呼吸困難、じん麻疹、腹痛や嘔吐などがあらわれます。

● 間質性肺疾患（かんしつせいはいしっかん）

肺胞（はいほう）の壁に起こる肺炎のことです。初期症状は、息切れ、空咳、発熱などです。

● 急性呼吸窮迫症候群（きゅうせいこきゅうきゅうはくしょうこうぐん）

肺が急速に障害を受け、肺胞（はいほう）の中に水分がたまります。まず息切れがあらわれ、浅く速い呼吸になります。その後、急激に呼吸が苦しくなります。

● Sweet症候群（スウィートしょうこうぐん）

発熱とともに、顔面、額部、四肢に痛みを伴う隆起性の紅斑があらわれます。

● 大型血管炎（おおがたけっかんえん）

大きな血管の炎症です。初期症状は、発熱、倦怠感、頸部や関節、筋肉などの痛み、めまいなどがあらわれます。

【その他の副作用】

発疹、背部痛、関節痛、筋肉痛、骨痛、頭痛、発熱、倦怠感、肝機能異常（ALT（GPT）上昇、AST（GOT）上昇）、白血球増加、好中球増加、血小板減少、リンパ球減少、LDH上昇、ALP上昇など

● 骨痛（こつつう）

背骨や骨盤、あるいは関節に、痛みがあらわれることがあります。これは、好中球が骨髄の中で急激に増えているために起こると考えられています。

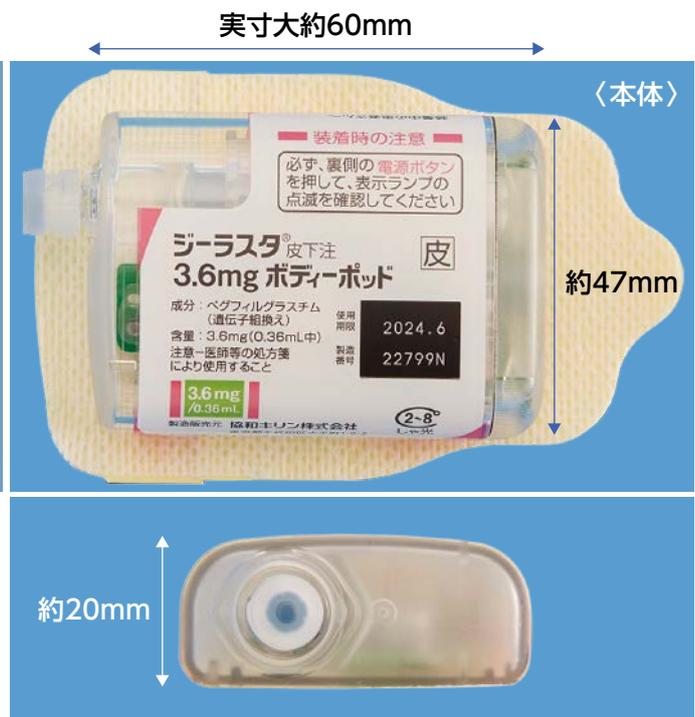
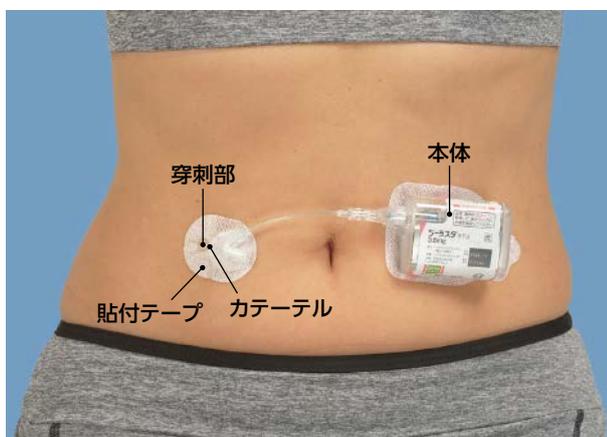
● 発熱

ジーラスタ®の投与開始3日から1週間の間に37.5℃前後の熱が出ることがあります。ただし、感染症による発熱である可能性もあるので、確認することが大切です。

ジーラスタ®ボディーポッドってどんなお薬？

A ジーラスタ®ボディーポッドはお腹に貼るタイプの自動投与デバイスです。病院でデバイスを装着して約27時間後に自動的に薬液の投与を開始します(投与は約24分間)。投与が終わった後は、患者さんご自身でデバイスを取り外していただきます。

●詳細は、患者さん向けリーフレットでご確認頂いてください。



穿刺部(カテーテルが刺さっている場所)

薬液はカテーテル(やわらかい管)を通じてお腹の皮下(皮膚内部の脂肪組織)に投与されます。カテーテルは内針(金属の細い針)と一緒に皮下に刺しますが、内針は引き抜かれ、カテーテルだけが皮下内に残されます。

(イメージ図)

